

子ども・子育て支援に関する

ヒアリング・ワークショップの実施報告③

【ヒアリング・ワークショップ実施状況】

実施日	対 象	対象 (参加) 人数	場 所	備 考
10月27日	マタニティセミナー参加者	27人	桑名市中央保健センター	【第3回会議にて報告】
10月29日	高校生（桑名北高校「わくわくコミュニケーション」を選択している2年生）	35人	桑名市子ども・子育て応援センター「キラキラ」	【第3回会議にて報告】
10月30日	高校生（桑名北高校「わくわくコミュニケーション」を選択している2年生）	33人	桑名市子ども・子育て応援センター「ぽかぽか」	柴田委員、横山委員参加 【第3回会議にて報告】
11月11日	中学生（多度中学校2年生の女子バレー部員）	7人	多度中学校	【第3回会議にて報告】
11月12日	中学生（陽和中学校1年生の男子テニス部員）	6人	陽和中学校	【第3回会議にて報告】
11月14日	「桑名子ども・子育て会議」市民公募委員応募者	7人	桑名市子ども・子育て応援センター「キラキラ」	【第3回会議にて報告】
11月26日	くわなわいわいワークショップ① （旧桑名地区ワークショップ）	7人	桑名市子ども・子育て応援センター「キラキラ」	横山委員、渡部委員参加
11月29日	発達に支援の必要な子どもの保護者のヒアリング	8人	桑名市子ども・子育て応援センター「キラキラ」	横山委員、濱内委員参加
12月1日	パパの子育て講座&くわなパパトーク（父親座談会）	12人	桑名市子ども・子育て応援センター「ぽかぽか」	濱内委員参加
12月2日	くわなわいわいワークショップ② （多度地区ワークショップ）	10人	多度すこやかセンター	伊藤（香）委員参加
11月7日～ 12月6日	子育て中の外国人のヒアリング	12人	公立保育所等を通じてヒアリング	

実施日	対 象	対象 (参加) 人数	場 所	備 考
11月8日～ 12月6日	一人親家庭の保護者のヒアリング	24人	公立保育所等を通じてヒアリング	

【ヒアリング・ワークショップ実施予定】

実施日	対 象	場 所	備 考
12月19日 ～1月22日	幼稚園教諭のヒアリング	各私立幼稚園、桑名市役所	
1月6日 ・17日	保育士のヒアリング	桑名市役所	
1月25日	くわなわいわいワークショップ③ (長島地区ワークショップ)	長島地域子育て支援センター	大橋委員参加予定

1 くわなわいわいワークショップ①（旧桑名地区）

日 時：平成25年11月26日

場 所：桑名市子ども・子育て応援センター「キラキラ」

- ・市広報紙の掲載や幼稚園・保育所（園）等を通じた案内の配布等により参加者を募り、参加した7人にワークショップの形式でヒアリング調査を行った。
- ・ワークショップでは、「自分はどんなタイプの親か」、「子育てについて思うこと」、「支援センターについて」、「市に期待すること」などについて、自由に話し合った。

■自分はどんなタイプの親か

○ごく一般的な親だと思う。心配する部分は心配し、怒るときは怒る。反省している点は、ねちねち言ってしまうところ。最近、3歳の娘が私の顔色をうかがう。私の目を見て怒っているかを判断しているようで、怖がらせてしまっている。怒るつもりはなくても、どうしても表情に出てしまっている。もう少し大らかに、心広くしたい

○自分には母性がないと感じている。他人の子どもはかわいくて面倒も見られるが、いざ自分の子となると違う。何でだろうと疑問に思っている。子どもが描く絵では、怒っている顔の私は目が三角になっているので、気を付けなければと思った

○夫には甘いと言われる。良し悪しの分別はつけているが、枝葉のことは割となあなあ。夫が補ってくれているので、夫婦でバランスがとれていると思う

○心配性ではないが、頑張る部分では頑張りすぎてしまうので、落差が激しい。完ぺきではないにしろ、なるべく手を抜きたくない。料理も3品くらい作りたいという自分の理想があり、それができないと罪悪感がわいてきて、それがイライラにつながってしまう。なので、夕方になるとイライラが積もり、夜はパタッと寝てしまう

○ガミガミ言う時と、大らかにみられる時があるが、夫にはガミガミタイプと言われる。子どもが年子で、どうしてもバタバタしてしまう。下の子が1歳で、下の子をかまっていると、上の子を見てやれない。上の子がしっかりしているので、ついそれに甘えてしまっている。最近は、教えてもいないのに箸を使いだした。子どもは親をみて育つので、教えなくてもできるんじゃないかと夫が言っていた。ガミガミ言い過ぎた時には反省している

○頭が固い。育児の参考書のようなものがあればそれに従ってやるが、本の内容どおり

じゃないと返って不安になるので、本をみないようにしたりする。すると今度は、他の人はどうなんだろうとか、これで合っているんだろうとか、常に気にしながら子育てしている。子どもは1歳3か月でかわいい時期だが、これまでを振り返ると余裕がなかったと思う

○子どもに気を使わせている。私もガミガミ言ってしまうが、私は自分を中心に進めたいぞというのを子どもにアピールしてしまうので、3歳になる子どもも反抗しだした。押さえつけるつもりはないが、子どもが走り出すと「走るな」みたいな感じになってしまっているので、子どもが伸び伸び育てていないのではないかと思う時がある。もう少し優しく言えたら良いのにと思っている

■子育てについて思うこと（どんなふうな子育てがしたいか、子どもにどういう人になってほしいか、そのためにどんな支援・環境が必要か）

○子どもが3歳までは、健康であること、周りに迷惑を掛けないことなど基本的なことを教える考えがあり、明るい子にしよう、色々とできる子にしようというのはこれからと考えていた。方向性や計画を持った方が良かったのかと思っただ、振り返るとそんな余裕はなかった。うちの子はあいさつができない。その場にふさわしい言葉が言えない。子どもは親の姿を見て育つので、自分の生活を律していかなければいけないと考えていたが、支援センターの先生に「そんなに肩肘張らなくて良い」と言われてほっとした。色んなことを話す相手がおらず、子育てにはいつも不安が付きまわっている。支援センターの先生には、ありがたいことをたくさん教えてもらった。先生からのアドバイスで救われる母親も多いと思うし、子どもの表情も変わってくる。そういうきっかけを与えることが支援だと思う

○子どもが1歳の頃に食べムラがあり、夫が補助ミルクの話を仕入れてきて、うちでもそれをやれと言い出した。せっかく母乳を卒業させようとしてきたのに、ミルクに戻すことに抵抗があり悩んでいた。支援センターの先生に相談したら、一番良いのは母乳だが、それを卒業したら次は食べ物で補給するのが理想なので、わざわざミルクを与える必要はないと教えてもらった。そのおかげで自信がついて、離乳食一本でやる気になった。本やインターネットではなく、先生方からの生きた情報の方が自信が持てる。自分の考えに沿った意見がもらえると良いのかも知れない

○どうしても同じ年齢のよその子ども、家庭と比べてしまう

○とにかく健康であってほしいという最初の願いからつまずいていて、口蓋裂という先天性の病気で生まれてきた。無事に生まれてきて、母乳もちゃんと出たが、それを吸う力が少なくてうまく飲めなかった。産婦人科の女医さんが穏やかな人だったので最初はのんびりと構えていたが、生後1週間の検査でおかしいぞということになった。里帰り出産した実家が田舎で、専門的な病院も知識のある人もいないためにたらい回しにされた。1週間経ったからという理由で産婦人科を退院させられ、耳鼻科に行けというアドバイスで行った耳鼻科からは専門外だからわからないと言われた。小児科に行けというアドバイスで行った小児科でもわからないということだったので、色々な所をたらい回しにされた。3時間かけて行った大きな病院でやっと病名が分かり、今は名古屋の大学病院に通っている。健康で生まれてくるのが当たり前とっていたので、最初から大変なおもいをして、毎日が必死。1歳半で手術したが、それまでは毎日がバタバタしていた。今はありがたいくらい元気で、こっちがヘトヘト

■支援センターについて

～利用したきっかけ～

○赤ちゃん訪問で紹介された

○公園で知らないお母さんから支援センターを紹介された。もう少し市からモーションがあっても良いと思う。認知度や利用実態を調べた方が良い

○家が近いので。子育てを始める前は仕事をしており、会社の中で役割を持って動いていた。母親になってからは、最初は頑張ろうと思って始めたが、子どもが1歳くらいになってきて、子どもと2人の時間が長いほど迷うことが増え、周りが気になり出し、子どもがよく泣いたのでストレスが多かった。1歳から2歳くらいまで夜泣きは毎晩だった。ただ泣くだけではなく、体をどこかにぶついたりしたので、病気なんじゃないかと心配だった。マンション住まいなので、下の階の住人に謝りにも行った。そういう色々なことがストレスだったので、誰かと話したくなった。

○子どもが9か月くらいから利用した。人見知りをなくしたかった

○子どもは1歳まで1時間おきの睡眠で、まったく寝ない子だった。遊び疲れたらぐっすり寝るだろうという考えで、生後3か月過ぎから色々な支援センターを利用した

～感想～

○支援センターに来て、誰と会話するわけでもないが、他の利用者とはなんとなくたまに少

し話すだけでちょっと気が楽になる。しゃべって良かったと思える。少しの時間の会話でも、その日を納得して終えることができる。夫と話をするのは違う。同じ悩みや違う悩みを話し合うだけで、身が軽くなる気がした。支援センターで先生の話聞くのも良いが、利用者と会話するだけでも楽になれる。子どもはしゃべらないので、お母さん同士で話したくなる。夫に話しても共感してもらえませんが、子どもと接している時間が違うので不公平感がある

○他市の支援センターを利用したこともあるが、桑名市の良いところは保育士さんが積極的に話しかけてくれるので、それがきっかけで他の利用者とも話をするようになるようになった。利用者は多いが、均等に話しかけてくれたりするので、継続して足を運びやすい雰囲気が作れていると思う

○長島地区に住んでいるので、「キラキラ」まで来るのはやや不便ではあるが、ここの先生方は名前をすぐに覚えてくれて、名前を呼んでくれるので感じが良かった

○出来上がっているグループには入りづらい

～期待すること～

○遠くから遊びに来ている利用者の無駄足にならないように、曜日・時間別で、テーマを決めて相談や話ができる機会を設けられないか

○支援センター内で催しがあれば良いと思う。協力しなければいけないようなイベントであれば、必ず話をする。センター内は自由で居心地がいいが、自由すぎて新旧の利用者が混じり合わない。センターの職員が積極的に声をかけて、利用者同士を結び付けてほしい。子どもの年齢が近くても、母親同士の年齢が離れていると絡みづらい

○無記名で相談できる投書箱のようなものがあれば支援センターにあれば良いなと思った。それに先生から返事がもらえるとうれしい。先日テレビで観た話だが、日本では褒められる経験が少ない。大人になればますます褒められる機会がなくなる。支援センターの先生に褒めてもらえるような投書箱があれば、がんばろうという気になれると思う

～その他～

○ほぼ毎日利用しているからわかることだが、1歳3か月の娘と同じ月齢の女の子に会わない。先生に相談するのも良いが、同じ月齢の娘を持つお母さん同士で話をしたいと思っている。愛知県蟹江町の支援センターに行ってみると、愛知県は三重県人も受け入れてくれるので良かったが、楽しそうな催し物には参加させてもらえなかった。

どこの支援センターに行っても一長一短で、気分転換にはなるが、根本的な問題は解決できていない。こういう相談や話し合いには行くが、結局どうなったのか、解決できたのかがわからない。深く関わってくれる人がいると良いなと思う

■市に期待すること

～子育て支援施策～

- 子どもを保育園に入れたかったが、働いていなかったから入れられなかった。経済的にも働き出たいが、子どもがいるから就職できないという時期がある。保育園と支援センターの中間のような保育を週3回程度でやってくれると助かる
- 半年間くらい一時保育を利用しながら働いていた知人がいたが、一時保育の料金が高いので、何のために働いているのかわからないという状況だった。外国は1時間100円らしいので、それくらいになると良い。また、定員枠も少ない。いつも空きがない。低料金で定員を増やしてくれると助かる。昔と違って核家族が多く、母親が子育てを担う部分が増えたと思う。母親が疲れる社会だと思う。例えば、「スーパーで3,000円以上お買い上げの人には託児1時間無料」というサービスがあれば、家電などもじっくりみられる。少しの時間でも子どもを預けられるような開けた場所が少ない
- 子どもが就園すると子育て支援センターが利用できなくなり、ぼかぼかなど一部しか使えない。園に通っているうちは良いが、夏休みの過ごし方をどうしようか悩んでいる。他市には色々あるが、桑名市は子どもと遊べる場所が少ない気がしている。愛知県には、子どもを家で遊ばせるのではなく、皆で遊べるよう学校を一部開放している市がある。桑名市でも既存の施設を活用してできることを増やしてほしい。子どもが大人数で遊べる環境づくりを進めてほしい

～相談・情報～

- 同じような病気や境遇、悩みを持つ人同士がつながりをもつきっかけをつくれなにか
- ネットで相談できる掲示板を作ってほしい
- 病気ごとの専門機関や情報が、市からまったく提供されておらず、自分で調べるのにとても苦労した。もう少し情報提供されていたら、あたふたせずに済んだし、共有もできたと思う
- 赤ちゃん訪問ですくすくを紹介してくれたのはありがたいが、時期的に大した相談ごともないような頃だったので、例えば、1歳・2歳の年単位で訪問してくれると、相

談先に困ったりしなくて済んだと思う。節目節目で訪問してくれると、最近のことやこれからのことをイメージしながら相談できると思う

○知人から「毎週育児相談に通っている」と聞いて驚いたが、内容はお母さん同士が気軽に集まって話をするサロンのようなものらしい。育児相談という名称に抵抗を感じる人もいるかも知れないので、もっと軽い名称でも良いと思う。大変なお母さんほど外に出られないと思うので、訪問相談はとても大事だと思う

2 発達に支援の必要な子どもの保護者

日 時：平成25年11月29日

場 所：桑名市子ども・子育て応援センター「キラキラ」

ファシリテーター：横山悦子（Beans（発達に支援が必要な子を持つ親の会）代表、桑名市子ども・子育て会議委員）

- ・発達に支援の必要な子どもの保護者を対象にヒアリングを行った。
- ・参加者8人にワークショップの形式でヒアリング調査を行った。
- ・ワークショップでは、3つのグループに分かれ、「困っていること」、「あって良かった支援」などについて、付箋紙に記入後、グループごとに話し合いながらまとめ、全体で発表した。

<1グループ>

【療育センターについて】

- 市の療育の体制が遅れていると感じる
- 療育センターに定員が一杯では入所できない状況がある
- 療育センターに定員があるのはおかしい。障がいある子どもにとって必要な支援は受けられるべきである
- 療育センターと保育園・幼稚園の両方に通えるようにすべき
- 療育センターと保育園・幼稚園の連携を強化すべき
- どんぐり教室（母子通園）は、週1時間では意味がない。もっと充実すべき
- 相談日やりハビリ時間を増やしてほしい

【経済的な負担について】

- 療育センターに入れなかったため、民間のリハビリに通っているが、費用が高額であり負担が大きい
- リハビリにかかる費用の補助は、償還払いではなく最初から払わなくてもいいようにしてほしい

【保育園・幼稚園の充実や利用支援等について】

- 利用できる保育園・幼稚園を探すのが大変だった
- 私立保育園・幼稚園にも加配をつけてほしい

○公立保育園も含め、市からの働きかけを積極的にしてほしい。→門前払いはなし

○小学校や特別支援学校の情報がほしい（見学会をしてくれるなど）

【専門的な支援の充実について】

○発達障がいや、その疑いのある子どもが増えているので、相談・医療の体制を充実してほしい

○近くに児童精神科の専門医療機関がなく、津まで行かなければならない

<2グループ>

【学校について】

○学校の送り迎えが大変なので、通学支援がほしい（愛知県や大阪にはある）

○学校間の交流があれば、情報交換ができる

○肢体不自由の子どもの場合、より見守りを要するので、1対1の支援ができるよう支援員を増やしてほしい

【良かったことについて】

○特別支援学級の先生は、とても理解があり安心だった

○公立保育園の友だちが、ずっとやさしくしてくれて、学校に行ってからでも良くしてくれている

【相談について】

○相談できるところが療育センターしかない

○専門の医療機関が少ない

○相談できる先輩がいない。いろいろなことを既に経験した先輩からアドバイスが受けられると助かる

○生まれて間もない頃の相談先がない

【専門的な支援の充実について】

○訓練の場がない

○小児医療を充実してほしい（市内に小児外科、眼科を）

【預ける場について】

○急なときに利用できない

○ファミリーサポートセンターで断られたことがある

【その他】

○親の会のような兄弟姉妹の会がほしい（名古屋や大阪にはある）

<3グループ>

【理解について】

- 祖父母や義父母などまわりの理解が足りない
- 隣近所では、わがままでと思われたり、障がい理解されない
- 地域の理解があれば、地域で暮らしやすくなる。→ヘルパーなどを利用して地域に出て行く
- 学校教育の中で、小学校から障がいの理解を進めるべき

【学校について】

- 教員の理解が足りない（教員への教育が足りないような気がする）
- 学校の先生にうまく伝わらない。→先生が子どもを批判するようなことを言うことがある
- 学校に行かない（学校の中に安心して居られる場がない）
- 子ども同士のもめごとを、先生も理解できないから、うまく解決できない
- 学習支援員が多いと良い
- 地域の学校に通えた方が良い

【放課後の居場所について】

- 放課後等児童デイサービスは月に10日しか支援がない。放課後等児童デイサービスや学童保育の拡充を望む
- 学童でも、親と離れて外出する体験は必要だと思う。体験させたいが保護者同伴という条件でしか利用できないのが現状である

【居場所について】

- 情報交換の場があって良かった（Beansがあって良かった）
- 家族で行ける居酒屋がある。居場所があるのは良いことである
- 身近に相談できる医療機関が少ない

【その他】

- 検診や相談で、「様子を見ましょう」（経過観察）と言われ、就学前相談の時に特別支援学級にと言われるケースが多い（特に軽度の場合）

3 くわなパパトーク（父親座談会）

日 時：平成25年12月1日

場 所：桑名市子ども・子育て応援センター「ぽかぽか」

ファシリテーター：濱内洋孝（長島中部保育所保護会会長、桑名市子ども・子育て会議委員）

- ・子育て中の父親を対象にヒアリングを行った。
- ・「パパの子育て講座&くわなパパトーク」と題し、第1部として赤ちゃんとのふれあい方・遊び方についての講座（講師：竹内由美（NPO法人 名古屋おやこセンター副理事長））を行った後、第2部として参加者12人の父親にワークショップの形式でヒアリング調査を行った。
- ・ワークショップでは、2つのグループに分かれ、「子育てで感じること」、「あったら良いと思われる支援」などについて、自由に話し合った。

<1グループ>

【子育てで普段実践している事、感じる事】

- 平日は仕事中心で、休日ぐらいしか子育てに関われないが、休日はお風呂に入れるなど、できるだけ子どもとスキンシップをとっていこうと思っている
- 平日、帰ってくると夜10時ぐらい。お風呂に入るのがスキンシップ
- 普段子育てをしてくれている妻が、できるだけプライベートの時間をつくれるようにしている
- おむつを替えたりしているが、子育ての「手伝い」ではなく「自分の仕事」としてやるようにしている
- 子どもを寝かしつけようとするが、妻がいないと探しに行き、なかなか自分だけではできないこともある。休日は、家族みんなで出かけることも多く、妻のプライベートの時間を作るのは難しい
- 休日は、料理を作ったりして、家事を行っている
- 妻は朝起きるのが比較的苦手なようで、朝ご飯を作るようにしている
- 家に帰ると妻や子どもがいて、独身の頃にはなかった、家に帰る喜びや楽しみができるようになった

○2人兄弟だが、母親の取り合いになる。自分の抱っこでは泣きやまないこともある。

普段の関わりも大事だと思う

○1人目よりも2人目の子どもの方が、リラックスして子育てできている

○子どもは1時間おきぐらいに夜泣きがあるが、ほとんど自分は起きず、妻が起きて対応しているので、もう少し手伝ってほしいと言われている

○趣味の釣りや飲み会に行くこともあり、妻の了解を得てそれに行きたいということもあって、なるべく家事や子育てをしている

○近くの公園に散歩によく出かけている。夜は比較的良好よく寝てくれている。お風呂では、すごく泣かれたことがあり、子育ては思ったようにはいかないことを実感。力を入れすぎないようにすることも必要だと思う

○妻に「ありがとう」と感謝の言葉を1日1回、携帯のメールが多いが、言葉がけするようにしている。また、自分の小遣いで、妻に土産を買っていたりすることもある

【子育てで困った時、どうしたか？】

○妻の両親に頼るか、インターネットなどを利用して自分で調べる

○妻は支援センターに毎日のように行っており、支援センターの先生によく相談している

<2グループ>

【子育てで普段実践している事、感じる事】

○仕事が忙しく、子どもの寝顔を見るだけの毎日。週末のみがふれあえる時間

○子どもの寝かしつけができない。母乳なので、ミルクも飲まない。妻の負担が大きい

○バランスをとるようにしている。休日をできるだけ有効に使って子どもとのふれあいを心がけている

○ふれあえる時期にふれあうことが大事だと思う

○子どもと二人だと3時間持たない。ずっと泣いていた。どうしたらいいか一通りチェックはしたが、結局は車に乗せて眠らせた。

○子育てに関して職場の上司の気遣いがあるといい

○子育てはあまり神経質になってはダメ。もっとリラックスすべき

○他のお父さんと交流できる機会が必要だと思う（他の子どもと比べることができる）

○自分の子ども以外の子どもと接することは大事である

【家事の分担など】

- 夫婦で家事はやれる方がやる
- 共働きなので、休日にはできるだけ家事をやるようにしている（妻のストレスが理解できる）
- 妻の負担は理解しているが、やれることは限られていると思う。楽しみながらやっている
- 育休は父親がとるという考えはない。難しい。仕事に行っている方が楽
- 妻が働くことについては、本人の意思を尊重すべき

【桑名市は子育てしやすいか？】

- 公園が多いところは良い
- メディアライヴなど施設が充実しつつある
- 保育園の父親同士など新しいつながりができる
- 公共のものを有効に活用するということでは、図書館で絵本を借りるといい。子どもの早期教育としても有効である
- 短い時間の預かりがあるといい（ショッピングセンター内の公的な預かり等）

<全体>**【参加した感想など】**

- 悩みを共有できた。自分だけではないという安心感を持てた
- 他の人の話が聞けただけでも良かった
- このような機会があればまた参加したい
- いろいろな人の話が聞けて新鮮だった。定期的にあるといい

【最後にママから】

- この場に参加しているだけでいい父親だと思う。いい機会をありがとう

4 くわな子育てわいわいワークショップ（多度地区）

日 時：平成25年12月2日

場 所：多度すこやかセンター

ファシリテーター：西田喜久子（子育てサークルちびっこ代表）

- ・市広報紙の掲載や幼稚園・保育所（園）等を通じた案内の配布等により参加者を募り、参加した10人にワークショップの形式でヒアリング調査を行った。
- ・ワークショップでは、「子育て支援の利用経験」、「子育て支援の利用に必要な情報の内容・提供方法等」、「母親の友達づくりの機会」、「父親の育児参加」などについて、自由に話し合った。

■子育て支援の利用経験

～利用した子育て支援の種類～

- 上の子の保育園の園庭開放
- 第二子が生まれる前は、いろいろな保育園の園庭開放、育児相談を利用
- 自分ひとりで出かけたい時には、保育園の一時保育
- 入所までの半年間に一時保育を1～2回
- 個人の子育てサークル
- 子育てサークル「どんぐりん」のイベント
- 多度すこやかセンターの育児相談・身体測定（月1回）
- 多度すこやかセンターのわんぱく広場
- 公園での青空保育

～利用する前は～

- 一度でも行くと気軽に行けるようになるが、最初の一步がなかなか踏み出せない
- 小さい子どもを園庭開放に連れて行っても良いのかわからない保護者もいる
- 多度に転居してくるまでの2年半は、どこにも行くことができなかった。最初の一步をずっと踏み出せなかった
- 場所がわからないと、一人で出かけることに消極的になってしまう
- 家の中でずっと過ごしていても特に問題はなかったため、外出先に迷ったり悩んだりしたことはなかった

～利用するようになったきっかけ～

- 園庭開放に行くようになったきっかけは、近所の保育園の保育士さんに声をかけてもらったから。近所の友人の紹介で、保育士さんがわざわざ自宅を定期的に訪問してくれた。ただし、同じ市内でも地域性によって違う
- 3か月児健診の際に職員さんから「どんぐりん」を紹介してもらった
- 近所を散歩中に仲良くなった人から紹介され、チラシをもらって予定を確認できるようになってから
- 近所に同じくらいの人が多くいたので、誘ってもらうようになってから

～利用してみた感想～

- もし二人目の子どもができれば、色々な所に外出してみたい
- 友人・知人に一度でも連れて行ってもらえれば、その後は一人でも行ける
- 歩いて行ける距離にあると良い。小さい子どもがいる家庭は尚更
- 桑名地区へは車で行かなければならず、駐車場の問題や子どもが車内でぐずったりして困った。多度地区内であれば散歩がてら歩いて行ける

■子育て支援の利用に必要な情報の内容・提供方法等

～現 状～

- 広報されていても、近隣のお母さん方には知らない人が多い。情報提供されている割に知られていない
- 場所がわかりづらく、駐車場も少ないところには、知っている人と一緒じゃないと行けない
- 役所や図書館にはチラシや予定表が置いてあるが、月末にならないと翌月分が手に入らなくて困る。ホームページも場所、名前、日程くらいしかわからなかった。内向的な人やまだ友人がいない人にとっては、足を運ぶきっかけにはならない
- 知り合いがいなくても気軽に遊びに行ける雰囲気なのかどうかかわからないと、一歩を踏み出すには勇気がいる
- 色々な支援やイベントが知らないうちに過ぎている。過ぎ去った後に、知人の感想などからあったことを知るといことがいっぱいある
- お母さん方は大型車に乗っている家庭が多いので、駐車場に余裕がないと外出に挑戦できない

○チラシとホームページの掲載情報が異なっている（ことがある）

○市の子育て支援情報のメールマガジンは育児相談くらいしか来ない

～届けてほしい内容～

○保育園は住宅地にあってわかりづらいので、地図を載せてほしい。駐車場の狭いのも事前にわかっていたら、それなりの覚悟で行ける

○駐車場の有無や参加者の対象年齢、人数、内容、持ち物、費用、遊んでいる様子や風景などを知りたい

○園舎や園庭、園児が遊んでいる様子、近隣の風景など、具体的にイメージできるような写真があると良い

○子育て支援センター「キラキラ」の正面は一方通行なので、曲がる交差点も含めて案内した方が良い

～伝わりやすい方法～

○公園の掲示板や回覧板に掲載。乳幼児健診の案内に同封するのも良い

○チラシが自宅のポストに投函されていたら確実に見る

○携帯電話にメールで送信してほしい。子育てサークル関係の情報が知りたいという希望者には、別のメールマガジンがあっても良い。メールであれば写真も添付できる

～最良策～

○子育て支援の利用の最初の一步には、場所がわかりやすいこと、駐車場の心配が無いこと。一緒に行ってくれる人がいれば言うことなし

○ご近所さんに誘ってもらって一緒に行くのが最も行きやすい。近所の人やお母さん方と知り合いになれば、行動範囲が広がる

■母親の友達づくりの機会

○マタニティ期間に友達は作れない。気分的にそんな余裕がない

○妊娠中は産むまでのことに集中している。子育てサークルなどの書類もたくさんもらうが、出産後の情報は読む気になれない。生まれた後は育てることに大変で、落ち着いてきて、行きたいなと思う時には情報がない。だからご近所さんに聞く

○散歩で偶然何回か顔を会わせて、運良く仲良くなれた感じだったので、同じぐらいの月齢の子どもを持つ近隣のお母さんと知り合える場があれば良かった

○「すくすく教室」は3か月児ではなく、6か月～8か月児を対象にしてほしかった。

子どもが3か月だと、まだどこにも行きたくない気分。疲れ切っている

- 他市町村では、行政が本を2冊くれる「ブックスタート運動」というのをやっている。役場に同じ月齢の子どもとその親が集まるので、交流もできる。将来的にも同じ学年として付き合い続けられる

■父親の育児参加

- 夫は育児に無関心。普段は何も協力せず、怒るだけ
- 夫は、よそのお父さん方が、子どもに対してどのように接しているか、どうやって遊んでいるかなどを知らない。私がその話をすると、「すごいね〜」「よそはよそ」という感想だけで終わってしまう。上手に育児しているお父さんの姿を、育児に非協力的な夫に実際に見せられるような機会があると良い
- 夫は仕事で疲れているので、1人になれる時間を作ってあげるようにしている。その後は協力してもらうようにして、メリハリをつけている

■父親と地域の関わり・つながり

～試行錯誤・奮闘中～

- 多度出身の父親が多いので、保育園に行くと旧友に再会し、同窓会のようになってしまう、思い出話ばかりで子どもの話にならない
- 転居してきた父親は、近所には会社の知り合いしかいないので、父親同士のつながりに入って行きにくい。役員が回ってくれば変わるかも知れないが、子どもが幼いうちはどうしようもない
- 「パパサロン」へは、私と一緒になら行くが、夫と子どもだけでは行かない
- 「パパサロン」に行ったが、結局私としゃべってばかりで、2回目以降はなかった。夫の本音では、会社は会社、地域は地域で、知り合いが欲しいと思っている

～うまくいった、良くなった～

- 土曜日の子どもの世話を夫に頼むようになってから、私が何に困っていたか、何に悩んでいたかがわかるようになったみたい。子どもを介して、地域の人と話せる、つながれる関係を学んだようだ
- 子どもの人数が増えたことで、夫として育児に責任を感じるようになった気がする。多度すこやかセンターの夏祭りにも、自分から連れていくと言い出した。子どもが3

歳くらいになると、夫でも連れ出しやすいのかも知れない

○多度に越してきたばかりの時に、仲良くなったお母さんとその家族全員を招いてバーベキューをしたので、父親同士もつながりをつくることができた。お母さん同士の集まりにお父さんを引き込んで、きっかけを作ってあげるのが良い

～その他～

○お父さんは体を動かす遊びが上手なので、子どもと一緒に参加できる体操教室や遊びを開催してほしい

○「パパサロン」という名称に抵抗があるらしい。「そんなにイクメンじゃない」と遠慮してしまう

○あおぞら出前保育は平日午前中なので、父親は参加しづらい

○長島のコスモス祭りに行ったが、お母さんと子ども連れがほとんどだった

○子どもが通っている保育園の行事はすべて土日なので、父親の参加率が高い。土日の開催が大事

■困ったことと市への要望

～新生児誕生祝～

○マンション等に住んでいる人もいるし、剪定も大変なので、出生記念樹じゃない品も選ばせてほしい

～子どもの急病～

○子どもが急病でも、桑名の応急診療所はもうやっていない。万が一の際に駆け込める病院が近くに欲しいと切に思う

○夜中に子どもが、これまでに聞いたことがないような声で泣き出した。色々な病院を電話で紹介されたが、どこも遠方過ぎて行けず、結局その日は座薬などで対処して、ちゃんとした受診と診断（＝中耳炎）は翌日だった

○熱とかであれば冷やすなどできるが、「痛い」にはどうしていいかわからない

○目に見えてケガをしているようなら救急車を呼べるが、「痛い」では呼びにくい

○救急車を呼んだ方が良いのかを尋ねたら、「呼ばないでください。応急処置をしてください」と言われた。結果的には電話で事なきを得たが、近くに病院があれば安心できる

○#8000番の電話が聞こえにくいし、つながりにくい。「この番号にかけてください」

とアナウンスされた番号はどこかの病院の直通電話だったが、電話が遠いのか聞き取れず、困った経験がある

～救急・小児医療に関する情報～

○大晦日にもかかわらず、子どもの水疱瘡を近所の開業医に診ていただいた。#8000番にかけていたら遠くの病院を紹介されていたかもしれないが、ご近所さんに相談したのが良かったのだと思う。「診療時間外だけど、とりあえずかけてみたら」とアドバイスしてくれた

○乳児健診や予防接種だと小児科という発想しかなく、打とうとすると1時間待ちは当たり前だったが、どこでも予防接種を打てることをお母さん同士の口コミで知った。小児科の情報も十分欲しいが、小児科以外でも事足りるというアドバイスもほしい

～医療費助成の手続き～

○医療費の窓口負担をなくしてほしい。夜中に急病で受診するときに、お金の心配をしななければいけないのはつらい。「手元にお金がなくても診てもらえた」という話を他県の友だちから聞くと、三重県は遅れていると思う

○病院窓口で一旦支払った医療費や児童手当は、世帯主である夫の銀行口座に振り込まれる。

○県外の医療機関に受診した場合に、医療費の返還請求の手続きが負担。また、きちんと還付されているかどうか、診療明細と還付金をチェックしないといけない。

○毎月1人ずつに届くハガキも無駄。そもそも窓口支払いがなくなれば、そのハガキ代も郵送料もいらぬ

～幼稚園の保育期間～

○2年保育の市立幼稚園を選んでも、年長時には学区の多度幼稚園に転園しなければいけないシステムなので、結局保育園を選択した。実家のある愛知県では3年保育が当たり前

○集団生活で覚えることがたくさんあるので、最低でも2年間は通わせたいのに、その選択肢が保育園しかない。そのためだけにお母さん方は就労しなければいけないが、子育て中の母親の条件に合う仕事はほとんどない。「私立に入れれば良い」と言うかも知れないが、何かあった時のことを考えれば、できるだけ近場に入園させたい

○幼稚園の人气がなくて、園長先生が困っていた。幼稚園は1年で環境、先生、必要なものなどが変わるので利用者の負担ばかりが大きい。たかだか1年のためだけに幼稚

園に移す保護者もいない。必然的に保育園に人気が集まる。幼稚園1年教育は悪循環の元凶でしかない

～保育・一時保育～

○市の職員には「お母さんが家にいるなら、色々な経験をさせてあげてください」と言われたが、5～6歳の子どもと四六時中一緒というのはちょっときつい

○保育園に2人同時に入園していると保育料が1人分半額だが、子どもの年齢が3学年離れていると何の恩恵もない。育てている人数は同じなので、同時じゃなくても割引があるとうれしい

○下の子どもが生まれる際に、家族が病気で、産前産後だけでも長子を保育園に入れたいと思って役所に行ったがうまく手続きが進まず、最終的に無認可の保育施設に入れることになったが、こういう時に最終的な手段を用意してもらえていなくて非常に困った。

5 子育て中の外国人

日 時：平成25年11月7日～12月6日

場 所：各公立保育所等

- ・各公立保育所等において、子育て中の外国人12人を対象に個別でヒアリングを行った。
- ・ヒアリングでは、「子育てするうえでの期待や不安」、「あるといいと思われる支援」などについて聴き取りを行った。

■子育てするうえでの期待や不安

- 保育所での様子
- 言うことを聞かなくなってきた
- 園に常勤の看護師がいないこと
- 日本語を覚えていきたい
- 遊び食べをして食事に時間がかかる
- 言葉が遅いので心配
- 仕事をしながら子育てをしていけるか不安
- 預けるところがあるか、保育所が決まるか心配
- 子どもの自閉症
- 子どもが病気の時

■困った時の相談相手（複数回答）

配偶者 (パートナー)	親	友人	療育センター	インターネット
4人	3人	3人	2人	1人

■子育ての援助者（複数回答）

配偶者	親	きょう だい	祖父母	叔父・ 叔母	友人	職場	同郷 の人	いない
3人	3人	2人	1人	1人	2人	1人	1人	3人

■あるといいと思われる支援

- 日本語の勉強をする場があるといい

- 言葉の壁があるので、伝えたいことが伝えられない
- 免許を取りたいが日本語が難しく取れない
- 残業があるので、8時くらいまでみてもらえる保育所があるといい
- 土曜・日曜の保育
- 看護師のいる園
- 年度の途中から保育園に入れたい
- 仕事を始めたら保育園に入れたい

■桑名（日本）に住み続けたいか

はい	いいえ	わからない
11人	0人	1人

■桑名（日本）は子育てをしやすいと思うか

はい	いいえ
11人	1人

■近所付き合いはあるか

ある	あいさつ程度 ならある	外国人の友人 (同郷の人) ならある	少し遠くの人 ならある	ない
6人	1人	3人	1人	1人

■子育て情報の入手方法（複数回答）

友人	インター ネット	本・雑誌	掲示物	近所の人	教会	きょうだい	ない
5人	3人	1人	1人	1人	1人	1人	1人

■その他、子育てで普段気になっていること

- 反抗期なのか、ストレスを発散しているのか、よく怒る
- 子ども姿、わがままなところ
- 夜、熱を出したりすると、自分では行けないので、救急車を使う
- 小学1年生の姉が、いじめられていたことがあった。しかし、先生や相手の親とも話し、今はいじめもなくなり、毎日楽しく学校へ行っている

6 一人親家庭の保護者

日 時：平成25年11月8日～12月6日

場 所：各公立保育所等

- ・各公立保育所等において、一人親家庭の保護者24人を対象に個別でヒアリングを行った。
- ・ヒアリングでは、「子育てするうえでの期待や不安」、「あるといいと思われる支援」などについて聞き取りを行った。

■子育てするうえでの期待や不安

- 上の子の受験
- 成長していく上で、一人だとどのようになっていくかわからないので不安
- 子どもが病気になった時に見てくれる人がいない
- ちゃんと関わってあげられるか、ちゃんと養っていけるか
- 子どもに関わってあげられる時間が少ない。淋しい思いをさせていると思う
- 余裕がなくなるとあたってしまうことがある
- 毎日困っている。おもちゃで姉妹をたたいて、反応を見ておもしろがっている

■困った時の相談相手（複数回答）

親	きょうだい	子ども	祖父母	叔父・叔母
9人	1人	1人	6人	2人
友人	保育士	恩師	会社の人	いない
9人	5人	1人	2人	1人

■子育ての援助者（複数回答）

親	きょうだい	子ども	祖父母	叔父・叔母	友人	ファミリーサポーター	いない
12人	5人	1人	7人	2人	1人	1人	1人

■あるといいと思われる支援

- 児童扶養手当の第1子と第2子の額を同じにしてほしい
- 自分が仕事で保育所の迎えに行けない時に代わりにいってくれるような支援員

- 保育所でしっかり支援してもらえれば良い（同様2人）
- 21時くらいまで保育してもらえるところ
- 病気の時の支援
- 病児保育が少なく、費用が高い（同様1人）
- 一時預かり（在園児も対象に）
- 24時間対応の小児科（同様2人）
- お迎え時間が少し過ぎても柔軟に対応してくれる保育所
- 放課後に地域で子どもと高齢者が一緒に集まって過ごせる場所
- 療育センターを増やしてほしい
- 障がいがあっても入れる保育所
- イベントを多くしてほしい
- 今あるところ以外にも児童センターがほしい
- トラブルの対処法について相談できる電話相談

■ 桑名に住み続けたいか

はい	いいえ	無回答
21人	1人	2人

■ 理想の親象は（こんな親になりたい、こんな親にはなりたくない）

【こんな親になりたい】

- 何でも話せる関係（同様3人）
- 子どもに必要とされ続ける存在
- 友だちのような関係
- 子どもが帰ってきたときに必ず家にいてあげる
- 隠し事はしない
- 子ども声に耳を傾け、何を思っているのかお互いにわかり合える関係
- 仲良い関係
- 一方的に考えを押しつけるのではなく話し合えるようになりたい
- 善悪のけじめがつけられる親
- 気持ちに余裕が持てたら良い

- 子どもを大切にする親
- 自分の手でしっかり育てていきたい
- 自分の親
- 【こんな親になりたくない】
- 子どもをほったらかしにする親（同様2人）
- ネグレクトする親
- うるさい親、否定的な人は嫌
- 怒ってばかりの親にはなりたくない
- 神経質になりたくない
- モンスターペアレント
- 虐待する親

■近所付き合いはあるか

ある	立ち話し程度	あいさつ程度	母子寮内	ない
6人	2人	2人	1人	13人

■子育て情報の入手方法（複数回答）

保育所	広報	情報誌	メルマガ	園内ポスター	保健師
9人	2人	2人	1人	1人	1人
インターネット	友人	家族	子ども同士の交流から	病院	ない
11人	6人	1人	1人	1人	2人

■その他、子育てで普段気になっていること

- スマートフォンを子どもが使うこと
- 言葉遣いが悪いこと